

# いぶき

2010.3.1 第60号

協同組合ニュース

岐阜県柔道整復師協同組合

〒501-8385 岐阜市下奈良 1-17-1

TEL058-277-5044

## パンフレットを作成し、 250組合に送付 柔整師の活動を紹介



岐阜県柔道整復師協同組合は、2000年2月22日に設立し、社会貢献を目的に事業を始めてから、本年度で丸10周年の記念の年を迎えました。

これもひとえに組合員各位のご協力の賜物と感謝申し上げる次第であり、また、このような中、今年度、岐阜県中小企業団体中央会が実施する小企業者組織化指導事業において、小企業者組合の模範となる**モデル組合**に指定されました。その事業の一環として、(社)日本柔道整復師会顧問弁護士である加藤興平先生により医療過誤に関する講演会を、教育情報提供事業として2月28日に開催いたしております。もう一方の柱である成果普及事業としては、本組合の活動内容や組合員の活動等を紹介するパンフレットを作成し、岐阜県内の関係する小企業者協同組合、250組合に配布いたしました。

本組合は、柔道整復業を営む事業者の集まりであり、組合員は接骨院を開院しており、その傍ら、各種スポーツ救護活動、介護保険における機能訓練ならびに介護支援事業所等、幅広い業務を通じて社会に貢献しております。今回作成したパンフレットが、協同組合の事業活動および、柔道整復師の普及や活動についての理解を高めることに役立つものと自負しております。

組合員の皆様にも1部送付いたしますので、宜しくご査収いただきますようお願い申し上げます。



## 第2回 大垣徳洲会病院整形外科部長 岡本 弘史先生 講習会

昨年12月13日(日)に接骨師会館で開催されました大垣徳洲会病院整形外科部長 岡本弘史先生の講演内容の概要を掲載いたします。

今回の講習会では、現在、大垣徳洲会病院整形外科で行われている下記のような疾患に対する治療方針、術式などを貴重な資料を交えて紹介して頂きました。また後半には、本講習会についての質疑応答はもちろんのこと、我々柔道整復師が日常診療で遭遇する様々な疑問に対しても丁寧にお答え頂きました。



### 『 脊椎疾患について 』

積極的に診察をしている疾患

- ・ 脊柱管狭窄症
  - ・ 椎間板ヘルニア
  - ・ 腰椎すべり症
- 痛みが強く、  
下肢にシビレを伴う症例

検査法

- ・ レントゲン検査
- ・ ミエログラフィー（造影剤検査）
- ・ MRI 検査（特に神経症状が診られるような症例に対して行う）

治療法

- ・ 投薬（鎮痛剤、血行促進剤）
- ・ 点滴
- ・ ブロック注射
- ・ 手術・・・必要に応じ損傷神経の除圧術、脊柱の固定術を行い、現在では、術後数日で歩行可能となり、2～3週間で退院できます。

予後

重症例では多少シビレが残る事もありますが、疼痛は消失し、日常生活における制限はほとんどありません。

### 『 股関節の人工関節について 』

対象となる症例

- ・ 変形性股関節症
- ・ 関節リウマチ
- ・ 臼蓋形成不全症（先天性股関節症）

## 手術の特徴

- ・ 寛骨臼（関節窩側）、大腿骨頭（関節頭側）の両方を人工物とする手術である
- ・ 術後、数日で歩行可能、数週間で退院
- ・ 術後に股関節に対し強い内転、内旋運動を強制されると脱臼する恐れあり
- ・ 人工関節の耐久年数は約 10～20 年

## 大腿骨頭置換術

この手術は、大腿骨頸部骨折後に行う手術であり、基本的に大腿骨頭のみ人工物に取り替える手術である。



## 『 膝関節の人工関節について 』

加齢などによって関節軟骨が磨耗した変形性膝関節症の患者では、先ずヒアルロン酸を注射して経過観察し、症状の改善が診られない症例に対して適用する。大腿骨側関節面、脛骨側関節面を削り、人工関節に入れ替える。股関節の手術同様、術後、数日で歩行可能となり、数週間で退院できる。

岡本先生は、ご自身も学生時代にスポーツ外傷を負われた時によく接骨院へ通院されたという経験もあり、以前より「医接連携」を唱えられている Dr.です。

大垣近隣の接骨院の皆様は、もし日常診療の中で経過不良な症例、あるいは疑義を感じる症例に遭遇した際には、是非、大垣徳洲会病院へ対診を依頼されては如何でしょうか？

下記は、当日行われました質疑応答の一部です。

## 《 質疑応答 》

Q：脊椎疾患の症例に対して除圧術、固定術を行う場合、棘突起部分を切除するとの説明でしたが、手術により体重支持力の低下や、運動制限は生じませんか？

A：切除するのは椎弓部分でも関節突起より棘突起側の箇所を切除するため支持力、安定性の心配はありません。また、固定術を行った後でも日常動作に問題はなく、ストレッチ運動なども可能です。

Q：変形性膝関節症の患者さんはヒアルロン酸注射を 1 回 / 1 週間位の割合で、数ヶ月処置される事がありますが、副作用などの心配はありませんか？

A：ヒアルロン酸注射の副作用は心配はいりません。

Q：最近、テレビCMなどで「ヒアルロン酸吸収食品」「サプリメント」などが注目を集めています。その有効性について先生の意見をお聞かせください。

A：患者さんから「飲んでみたい」と言われれば、拒否はしません。

Q：以前、ある病院にて「心因性の腰痛」と診断された患者さんから相談を受けた事があるのですが、どのように対応したら良いのでしょうか？

A：臨床では少なくない症例です。しかし、最初から「心因性」と決め付けず、諸検査、様々な処置をしていき、最終的に「心因性の可能性がある」として投薬していく事が大切です。